

## 第10回 五ヶ瀬川水系等浸水被害及び土砂災害軽減対策協議会

## 令和4年度の実施取組内容

■国土交通省 延岡河川国道事務所	1
■宮崎地方気象台	11
■宮崎県	14
■熊本県	21
■大分県	23
■延岡市	26
■佐伯市	34
■高千穂町	36
■日之影町	40
■五ヶ瀬町	44
■高森町	47
■山都町	49

# 令和4年度の実施取組内容

国土交通省 延岡河川国道事務所

- ②水害リスク・ハザードマップの周知【ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取り組み】
- ③避難行動の周知【スマートフォンによる防災講座の検証：令和4年9月台風14号】

○令和3年に古川地区でマイハザードマップ、タイムラインの作成支援、スマートフォンによる防災情報の入手方法に関する講座を実践し、令和4年9月の台風14号時に活用された。

## 令和3年の実施状況

### スマートフォンによる防災講座 (R3.10.26)



### マイハザードマップ・タイムライン作成 (R3.10.26)

	平常時	台風発生時	台風接近	少雨・弱風	南風が徐々に強くなる	台風最接近
古川地区 コミュニティタイムライン						
気象情報	気象情報 (古川地区)	気象情報 (古川地区)	気象情報 (古川地区)	気象情報 (古川地区)	気象情報 (古川地区)	気象情報 (古川地区)
五ヶ瀬川の情報	五ヶ瀬川の水位 (古川地区)	五ヶ瀬川の水位 (古川地区)	五ヶ瀬川の水位 (古川地区)	五ヶ瀬川の水位 (古川地区)	五ヶ瀬川の水位 (古川地区)	五ヶ瀬川の水位 (古川地区)
市から発令される情報	市から発令される情報 (古川地区)	市から発令される情報 (古川地区)	市から発令される情報 (古川地区)	市から発令される情報 (古川地区)	市から発令される情報 (古川地区)	市から発令される情報 (古川地区)
住民 (自方ご家族)	住民 (自方ご家族) (古川地区)	住民 (自方ご家族) (古川地区)	住民 (自方ご家族) (古川地区)	住民 (自方ご家族) (古川地区)	住民 (自方ご家族) (古川地区)	住民 (自方ご家族) (古川地区)
住民 (おたがひ)	住民 (おたがひ) (古川地区)	住民 (おたがひ) (古川地区)	住民 (おたがひ) (古川地区)	住民 (おたがひ) (古川地区)	住民 (おたがひ) (古川地区)	住民 (おたがひ) (古川地区)
自治会役員	自治会役員 (古川地区)	自治会役員 (古川地区)	自治会役員 (古川地区)	自治会役員 (古川地区)	自治会役員 (古川地区)	自治会役員 (古川地区)



## 令和4年の台風14号で活用

令和4年9月 台風14号に関するヒアリングより (R4.12.13)  
(古川地区の地区代表の方を対象)



事前に登録していた川の防災情報を活用



### ■ 防災講座に参加した人

防災情報の講座に参加した人は、実際にスマートフォンで川の防災情報などで情報収集していた。

マイハザードマップ、タイムラインを作成していたので、事前の心構えができていた。

### ■ 一方で防災講座に参加していなかった人は川の状況が気になり、夜間に川を見に行った人もいた。

⇒川の防災情報で現地確認可能なことを紹介

### ■ 今後に向けて

今後も、防災情報の入手を実践する講座について関係機関と連携し、水防災教育を推進していく予定。これにより、より多くの人々が、自ら必要な情報を収集し、自ら避難を判断できることを期待する。



②水害リスクの周知・ハザードマップの周知

【学校教育機関を対象とした防災教育の推進】

- 平成30年度に防災学習を支援して以来、現在も継続して防災学習資料が活用されていた。
- 今後も教員のニーズに対応した支援を実施していく。

防災学習セットを小学校10校に提供 (R2)  
(延岡河川国道事務所⇒各学校)

フォローアップヒアリングの結果 (R4.12.13)  
(岡富小学校の教頭先生を対象)

過年度に提供した防災学習セット

防災教育サイトに追加できるとよい

延岡河川国道事務所より五ヶ瀬川沿川の小学校10校に対して防災学習支援セットを提供

国土交通省(延岡河川国道事務所)

↓ 防災学習支援セットの提供 ↓

学校 (教員)

↓ 防災授業で活用 ↓

子供たち

**防災学習支援セットの内容**

- ①水害マップ、想定最大規模降雨時の水害マップ A0版ロングサイズ
- ②水害写真集
- ③水害の映像 (平成17年9月台風14号)
- ④水害イメージの映像 (被害映像ショートムービー)

※水害マップデータ、水害マップ早見図 (広域版・拡大版)、使用しているオリジナル写真もDVDに同封

- ◆各小学校区の水害マップ (作成事例：南方小学校区)
- ◆各小学校区の想定最大規模降雨時の水害マップ
- ◆水害写真集 (作成事例：延岡小学校)
- ◆水害マップ早見図 (広域版・拡大版)
- ◆水害の映像 (平成17年9月台風14号)
- ◆水害イメージの映像 (被害映像ショートムービー)

- 防災教育サイト  
情報の入り口は役に立つ。
- 過年度に提供した防災学習セット  
防災学習セットが防災教育サイトで提供されるとよい
- 防災情報の入手方法及びリスクマップ  
(ハザードマップポータルサイトを活用)  
有益な情報である。教頭会で説明して持ち帰ってもらえるとよい

教頭会で防災情報とリスクの確認方法について情報提供

防災学習資料に対するニーズ把握に使用した資料

学年	社会	理科	総合	活用できる素材
小学4年生	社会「水はどこから」 水はどのようにして流れているのか、観察する。	理科「水はどろろ」 水はどろろと流れている。水はどろろと流れている。	総合「水はどろろ」 水はどろろと流れている。水はどろろと流れている。	1.航空写真、川の紹介 2.災害 (地震・津波・水害) 3.川の勾配 4.土地利用・地形・地質
小学5年生	社会「きょうとをむらさ」 きょうとをむらさ。きょうとをむらさ。	理科「自然と天気の変化」 自然と天気の変化。自然と天気の変化。	総合「自然と天気の変化」 自然と天気の変化。自然と天気の変化。	5.川の石、川の流れ 6.台風と天気 7.洪水のしくみ 8.ハザードマップ
小学6年生	社会「大のつくりと文化」 大のつくりと文化。大のつくりと文化。	理科「大のつくりと文化」 大のつくりと文化。大のつくりと文化。	総合「大のつくりと文化」 大のつくりと文化。大のつくりと文化。	9.障害者定住区域 10.国、県、市の働き 11.防災情報 12.洪水を防ぐ取組 13.土砂災害 14.命を守るための行動、避難

ハザードマップポータルサイト 標高図 (2D)

自分の校区内の特性を知ることができる

出典：国土情報 <http://maps.gsi.go.jp/development/ichiran.html>

① 防災情報の入手方法 ② リスクの確認方法

今後、どうなる？

もし、川が氾濫したら？

今、川は どうなってる？

今後、雨は どうなる？

どれくらい 浸水するの？

土地低い？ 水が集まりやすい？

雨と川の情報をリアルタイムで検索 校区内で起こり得るリスクをイメージ

防災教育サイト  
(防災情報の入り口)

リスクマップ  
(ハザードマップポータルサイトを活用)





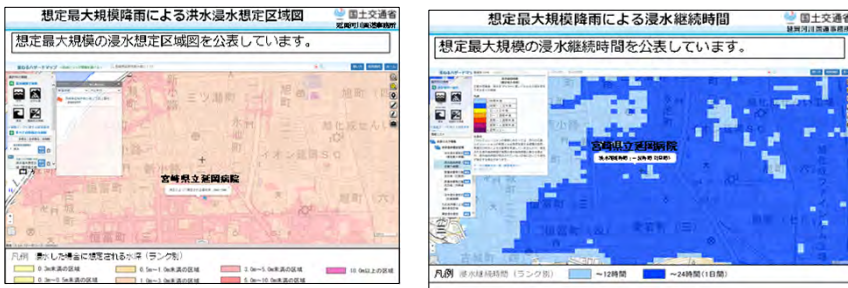


⑤情報伝達・情報提供の充実・強化

【災害拠点病院の施設関係者への情報提供】

○地域災害拠点病院向けに水害リスク情報を提供してきたが、さらに具体的な必要情報として止水板の設置のタイミングについて意見交換を行い、参考となる情報の提供を行った。

これまで実施してきた取組：水害リスクの情報提供

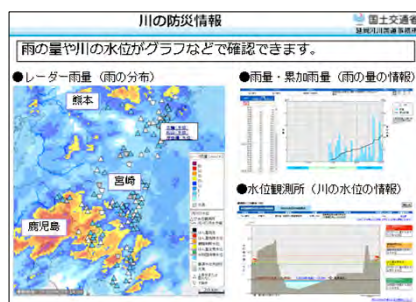


想定最大規模の浸水深

想定最大規模の浸水継続時間



五ヶ瀬川ポータルサイト



川の防災情報



フォローアップヒアリングによる取組の検証 2022. 5.24実施

出水期に向けて止水板設置のタイミングを再確認

五ヶ瀬川防災ポータルサイトで、病院として必要な情報をカスタマイズできることを紹介

止水板設置を判断する情報として大瀬川の情報を紹介

タイムラインを紹介 病院での作成を推奨

■成果

○出水期に向けて止水板設置のタイミングについて意見交換ができた。設置にあたって参考となる大瀬川（三ツ瀬水位観測所）の情報について説明するとともに、事前に病院内部で止水板設置のタイミングを含むタイムライン（事前防災行動）の作成をしておくことを推奨した。

■今後に向けて

○引き続き、各機関が必要とする情報等についてニーズを把握し、フォローアップを行っていく予定。



③避難行動の周知

【自ら判断して避難できる人材育成を目的とした水防災教育の推進】

- 水害リスクの説明、堤防模型を使った洪水のしくみの説明、防災業務の紹介
- 国土交通省が実際の災害時に提供している防災情報（レーダー雨量や河川の水位等）について紹介

延岡小学校 出前講座 (R4.10)

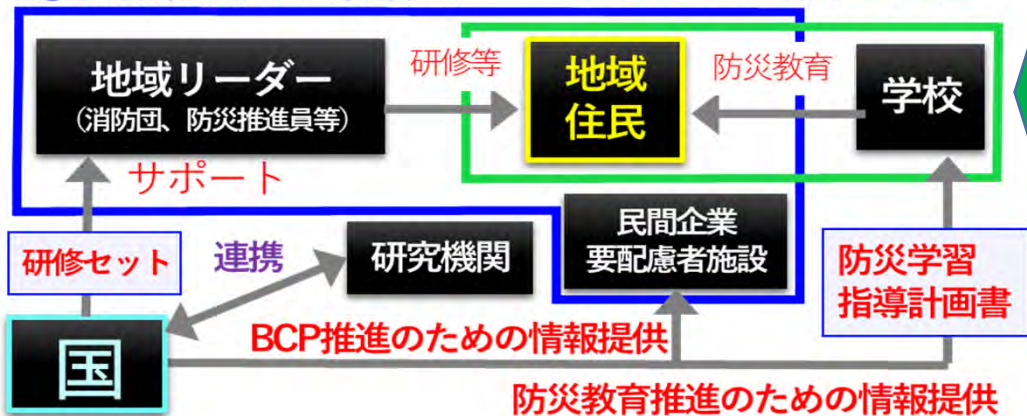


旭小学校 防災室見学 (R4.5)



①地域住民の人材育成

②次世代の人材育成



自ら判断して避難できる人材育成を目的とした水防災教育の推進

次世代を担う子供たち向けの人材育成に着目

- 自分のまちの水害リスクを知る
- 避難のための防災情報を知る
- 自ら判断して避難できる

■今後に向けて

今後も、次世代を担う子供たち向けの人材育成について、関係機関と連携し推進していく。これにより、自ら判断して避難できるようになることを期待する。



## ④多機関連携型タイムラインの運用

【多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号】

○令和4年9月の台風14号における各機関の対応と得られた・感じた課題について情報共有を行った。今回の経験をふまえ、より実効性の高いタイムラインにするために、現行のタイムラインの見直しについて関係機関の意見を今後聴取し、今年の出水期に備えることとした。

## ◆ 実施状況

○日時：

令和5年2月27日（月）15:00～16:30

○場所：

延岡河川国道事務所 3F 会議室  
WEB会議併用（Teams）

○出席者：

宮崎地方气象台、宮崎県危機管理課、河川課、延岡土木事務所、西臼杵支庁、東臼杵農林振興局、延岡市、五ヶ瀬町、日之影町、高千穂町、延岡市消防本部、消防団、株式会社NTTフィールドテクノ、宮崎ガス株式会社、旭化成株式会社、延岡市区長連絡協議会、延岡市自主防災組織連絡協議会、宮崎県立延岡病院、延岡河川国道事務所

参加人数 約40名

## ◆ 議事次第

1. 開会／挨拶
2. 議題
  - ・台風14号における各機関の対応と課題
  - ・タイムラインの見直し
3. 質疑応答
4. 総括
5. 閉会

## ◆ 総括 村上座長（宮崎大学）

- ・今回の対応でうまくいったところ、改善が必要なことについてとりまとめ、今年の台風に備えることが必要。
- ・住民の方に自ら行動するようなマインドをもってもらわなければならない。地道に進めていくしかない。引き続き、がんばっていただきたい。水門操作における対応（流木による閉塞等）は早期解決できる。
- ・実態として車での避難が増えている。避難をどのように行うかなど、今後の課題として考える必要がある。

## ◆ 杉田副所長

（延岡河川国道事務所）

よりよいタイムラインにしていくために、今一度、台風14号の対応や課題を振り返って頂きたい。



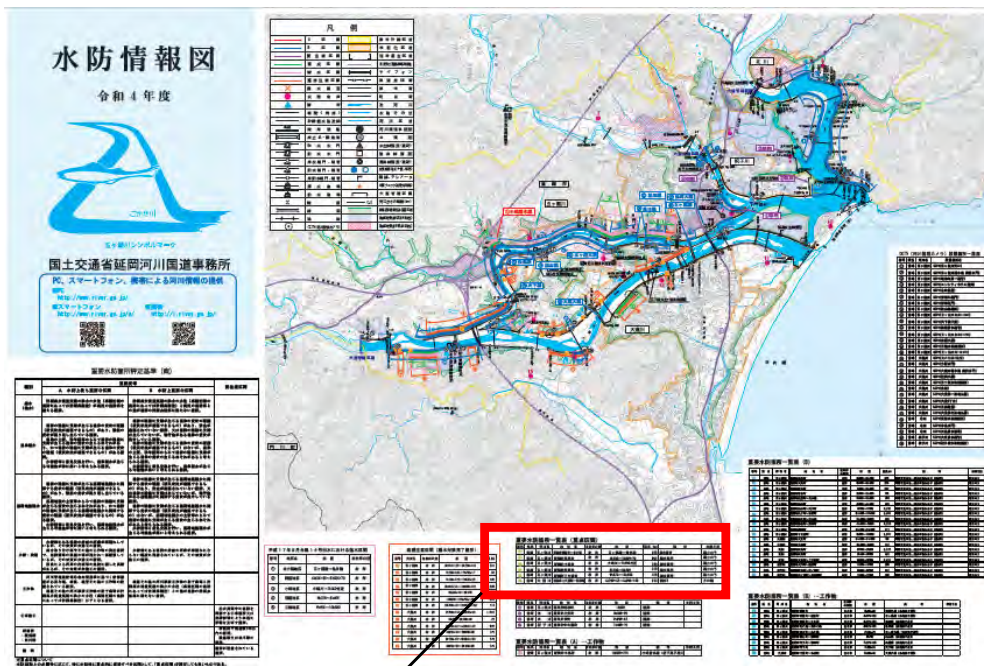


⑧ リスク共有

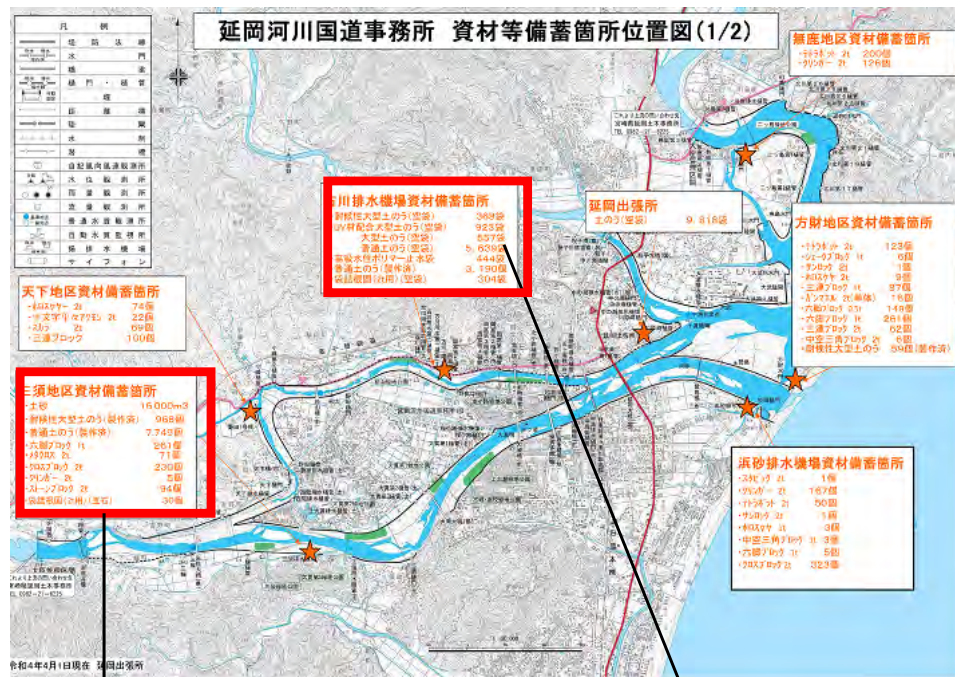
【重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認】

- 災害時の円滑な防災対応のため、重要水防箇所の見直し及び水防資機材の確認を実施。
- 確認結果については、関係機関において情報共有。

■ 重要水防箇所の見直し



■ 水防資機材の確認



三須地区資材備蓄箇所

- ・土砂 16,000m<sup>3</sup>
- ・耐候性大型土のう(製作済) 968個
- ・普通土のう(製作済) 7,749個
- ・六脚ブロック 1t 261個
- ・杓クross 2t 71個
- ・クrossブロック 2t 230個
- ・クランガー 2t 5個
- ・ストンブロック 2t 94個
- ・袋詰根固(2t用)(玉石) 30個

古川排水機場資材備蓄箇所

- ・耐候性大型土のう(空袋) 368袋
- ・UV材配合大型土のう(空袋) 923袋
- ・大型土のう(空袋) 557袋
- ・普通土のう(空袋) 5,639袋
- ・高吸水性ポリマー止水袋 444袋
- ・普通土のう(製作済) 3,190個
- ・袋詰根固(2t用)(空袋) 304袋



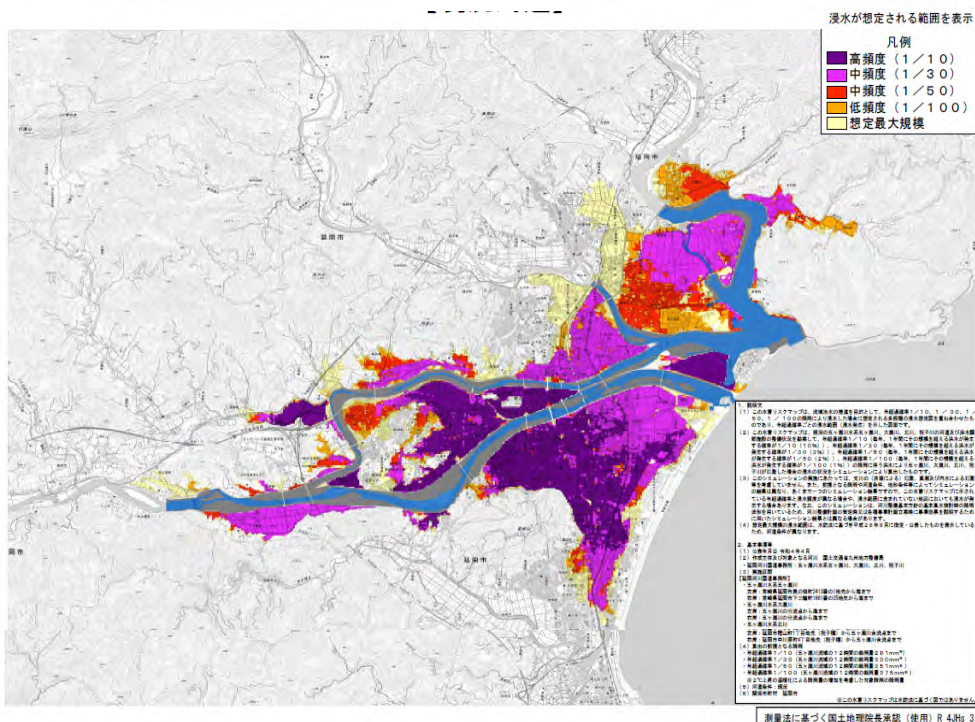
①水害BCPの促進

【水害リスクマップの作成等】

○水災害リスク情報の更なるデータの充実とその利活用（まちづくりや住まい方の工夫、将来の宅地開発や企業の立地選択等）の推進に向け、想定最大規模降雨のみならず中高頻度の降雨（例えば10年や30年に一度程度発生する降雨）を想定した場合の水害リスク情報を重ね合わせ、浸水の頻度を示した水害リスクマップ（仮称）の作成等を進める。

○まちづくりとの連携や流域対策も含めた事業効果の見える化等、様々な活用目的ごとに合わせたアウトプットも必要と考えられるため、今後各分野で検討。

【水害リスクマップ(五ヶ瀬川)】



※現在の浸水想定区域図に加えて、より頻度の高い複数降雨による浸水範囲を頻度毎に示した図

【活用例(目的)】

**水災害リスクを踏まえたまちづくり・住まいづくり**

- ・現在のリスクに加え、将来のリスクも提示(整備効果の見える化)
- ・土地利用規制や居住の誘導を促進
- ・きめ細やかな企業BCPの作成、水害保険への水害リスクの反映

現況

整備後

**ハード整備による水害リスクの軽減**

※1 河道条件: H28米時高

※2 河道条件: R5米時高  
(高頻度以外は現況河道の計算結果)

整備効果の見える化のイメージ



⑩避難行動、水防活動、排水活動に資する基盤整備

【天下地区河川防災ステーション整備事業】

- 水防活動を行う上で必要な土砂などの緊急用資材を事前に備蓄しておくほか、防災活動に必要な資材の搬出・搬入やヘリコプターの離着陸などに必要な作業面積を確保
- 洪水時には市町村が行う水防活動を支援し、災害が発生した際には、国が緊急復旧などを迅速に行う拠点として機能
- 災害対策車庫には雨水貯留タンクを設け、また場内は透水性舗装を行い、貯留、浸透機能を持たせる施工を図る予定



# 令和4年度の実施取組内容

## 宮崎地方気象台



④多機関連携型タイムラインの運用

【多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号】

○令和4年9月の台風14号において、宮崎地方気象台、延岡河川国道事務所、宮崎河川国道事務所で合同説明会を実施し、WEB会議ツールによる危機感の共有を行った。

宮崎地方気象台、延岡河川国道事務所、宮崎河川国道事務所で合同説明会を実施



気象情報の提供  
(気象庁)

危機感の共有

河川情報の提供  
(国土交通省)

報道向けに情報を提供





④多機関連携型タイムラインの運用

【多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号】

○令和4年9月の台風14号における各機関の対応と得られた・感じた課題について情報共有を行った。今回の経験をふまえ、より実効性の高いタイムラインにするために、現行のタイムラインの見直しについて関係機関の意見を今後聴取し、今年の出水期に備えることとした。

◆ 実施状況

- 日時：令和5年2月27日（月）15:00～16:30
- 場所：延岡河川国道事務所 3F 会議室  
WEB会議併用（Teams）
- 出席者：宮崎地方気象台、宮崎県危機管理課、河川課、延岡土木事務所、西臼杵支庁、東臼杵農林振興局、延岡市、五ヶ瀬町、日之影町、高千穂町、延岡市消防本部、消防団、株式会社NTTフィールドテクノ、宮崎ガス株式会社、旭化成株式会社、延岡市区長連絡協議会、延岡市自主防災組織連絡協議会、宮崎県立延岡病院、延岡河川国道事務所

参加人数 約40名

◆ 議事次第

1. 開会／挨拶
2. 議題
  - ・台風14号における各機関の対応と課題
  - ・タイムラインの見直し
3. 質疑応答
4. 総括
5. 閉会

◆ 総括 村上座長（宮崎大学）

- ・今回の対応でうまくいったとこと、改善が必要なことについてとりまとめ、今年の台風14号に備えることが必要。
- ・住民の方に自ら行動するようなマインドをもってもらわなければならない。地道に進めていくしかない。引き続き、がんばっていただきたい。水門操作における対応（流木による閉塞等）は早期解決できる。
- ・実態として車での避難が増えている。避難をどのように行うかなど、今後の課題として考える必要がある。

◆ 杉田副所長（延岡河川国道事務所）

よりよいタイムラインにしていくために、今一度、台風14号の対応や課題を振り返って頂きたい。





# 令和4年度の実施取組内容

## 宮崎県

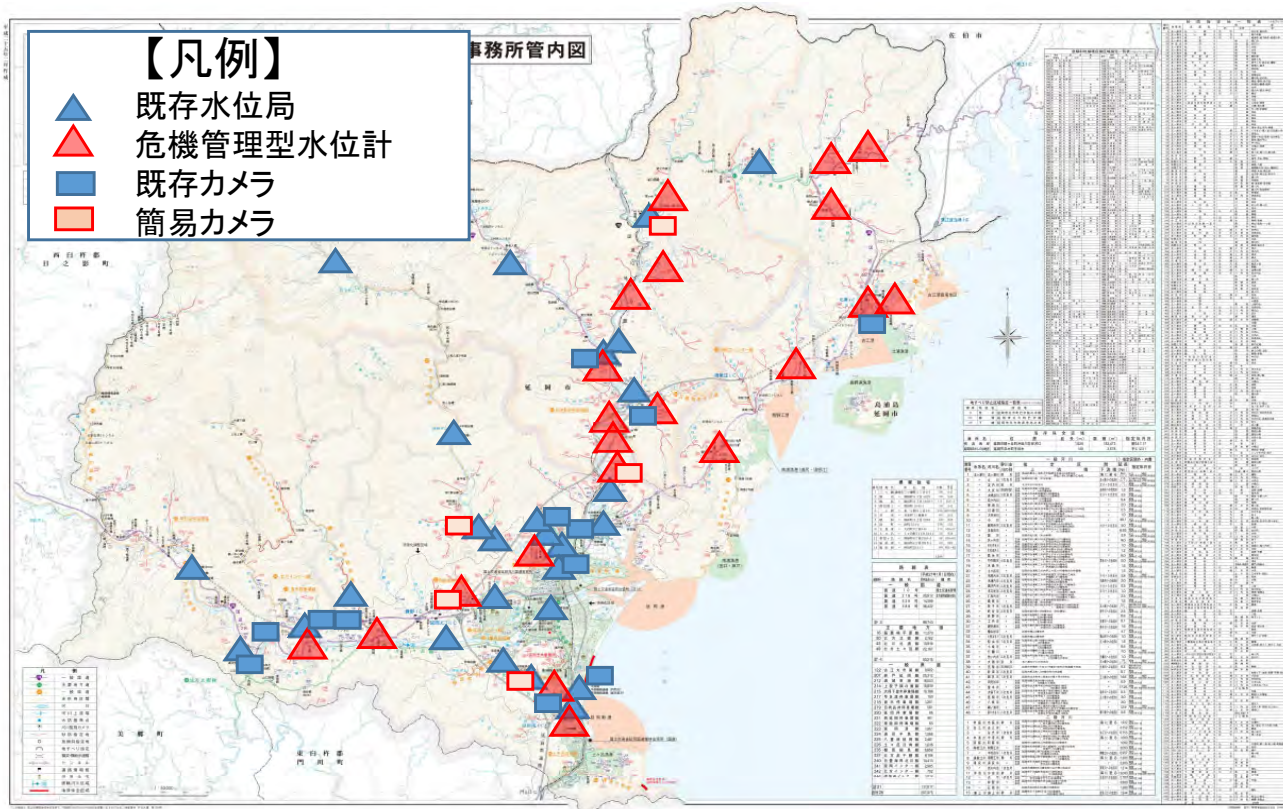




⑤ 情報伝達・情報共有・情報提供

【洪水予測や水位情報の提供の強化】

- みずからが水害リスク情報の収集が可能となるための水位計、量水標、河川カメラ、浸水センサー等の検討・整備を実施。
- 継続して安定した雨量・水位情報等を提供できるよう観測局等の機能の向上を図るとともに適切な維持管理に努める。



危機管理型水位計設置例：  
小川梅木橋  
(北浦町)



簡易カメラ  
設置例：  
家田川  
家田地区  
(北川町)

- 身近な地区を流れる河川において、洪水時の水位情報を住民に示すことにより、避難判断の材料になるものと期待。





⑦防災意識の醸成

【防災力の強化】

- 防災士養成研修…災害時において最も重要な「自助・共助」を推進するため、地域防災の核となる防災士を養成している。
- 防災士出前講座…自主防災組織や自治会、学校や企業に防災士を講師として派遣する出前講座を実施し、地域の防災力を向上させている。

宮崎県防災士養成研修

・令和4年5月末現在の防災士数  
 〈宮崎県〉 6,147名(人口10万人当たり579名)  
 〈全国〉 231,845名(人口10万人当たり184名)

・防災士数の順位  
 全国…14位 九州…3位(福岡、大分に次ぐ)  
 ※人口10万人比では、**全国6位**



宮崎県防災士出前講座

・養成してきた防災士を活用し、自治会や自主防災組織等で実施する研修等に防災士を講師として派遣する。

令和4年度 宮崎県防災士 出前講座

宮崎県内のご所属の会場に防災士を派遣し、防災学習や講座を中心とした防災・減災についての講座を開催いたします。

令和4年 4月～3月 新年度・有期は随時

令和5年 9月～17日 防災訓練実施の機会にご活用ください。

無料 (参加費は無料)

- 地震・津波についての基礎講座
- 気象・火山についての基礎講座
- 家具固定に関する講座・実習
- 地域の地図を用いたワークショップ
- 避難所運営ゲーム等を用いた防災学習

申込先: 県民いっしょを 国分市特別の02-17500  
 NPO法人 宮崎県防災士ネットワーク  
 - MIYAZAKI Bousai Network -

〒990-0800 宮城県仙台市青葉区11-11 アイコンビル  
 TEL: 022-642-0467 FAX: 022-642-0467  
 MAIL: kankousaishi-mw@cronos.scn.na.jp



出前講座の主な内容

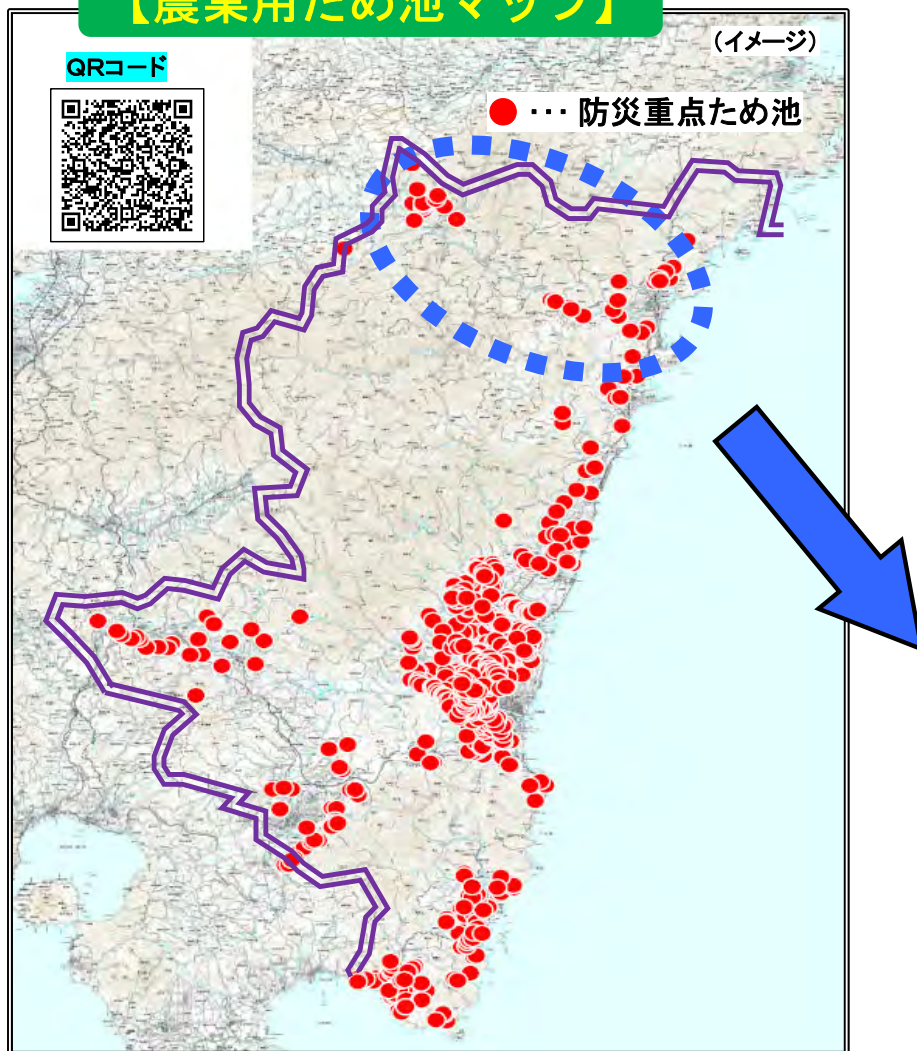
- 地震・津波についての基礎講座
- 気象・火山についての基礎講座
- 家具固定に関する講座・実習
- 地域の地図を用いたワークショップ
- 避難所運営ゲーム等を用いた防災学習

②水害リスク・ハザードマップの周知

【農業用ため池マップの公表】

○今後のため池対策の進め方に基づく緊急時の迅速な避難行動につなげる対策のひとつとして、ため池の位置等を住民に知っていただくため、宮崎県内の防災重点ため池マップを作成。

【農業用ため池マップ】



農業用ため池マップの公表について

【経緯】

今後のため池対策の進め方に基づく緊急時の迅速な避難行動につなげる対策のひとつとして、ため池の位置等を住民に知っていただくため、宮崎県内の防災重点ため池マップを作成。

【防災重点ため池とは】

決壊した場合の浸水区域に家屋や公共施設等が存在し、人的被害を与えるおそれのあるため池。

(令和4年3月時点)

農業用ため池の総数	うち、防災重点ため池
657箇所	424箇所

ため池マップには、  
ため池名、所在地、  
貯水量、緊急時の連絡先を掲載

県道

H25県土整備部  
砂防課撮影

農業用ため池(黒岩ため池)



## ④多機関連携型タイムラインの運用

【多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号】

○令和4年9月の台風14号における各機関の対応と得られた・感じた課題について情報共有を行った。今回の経験をふまえ、より実効性の高いタイムラインにするために、現行のタイムラインの見直しについて関係機関の意見を今後聴取し、今年の出水期に備えることとした。

## ◆ 実施状況

○日時：

令和5年2月27日（月）15:00～16:30

○場所：

延岡河川国道事務所 3F 会議室  
WEB会議併用（Teams）

○出席者：

宮崎地方气象台、宮崎県危機管理課、河川課、延岡土木事務所、西臼杵支庁、東臼杵農林振興局、延岡市、五ヶ瀬町、日之影町、高千穂町、延岡市消防本部、消防団、株式会社NTTフィールドテクノ、宮崎ガス株式会社、旭化成株式会社、延岡市区長連絡協議会、延岡市自主防災組織連絡協議会、宮崎県立延岡病院、延岡河川国道事務所

参加人数 約40名

## ◆ 議事次第

1. 開会／挨拶
2. 議題
  - ・台風14号における各機関の対応と課題
  - ・タイムラインの見直し
3. 質疑応答
4. 総括
5. 閉会

## ◆ 総括 村上座長（宮崎大学）

- ・今回の対応でうまくいったところ、改善が必要なことについてとりまとめ、今年の台風に備えることが必要。
- ・住民の方に自ら行動するようなマインドをもってもらわなければならない。地道に進めていくしかない。引き続き、がんばっていただきたい。水門操作における対応（流木による閉塞等）は早期解決できる。
- ・実態として車での避難が増えている。避難をどのように行うかなど、今後の課題として考える必要がある。

## ◆ 杉田副所長

（延岡河川国道事務所）

よりよいタイムラインにしていくために、今一度、台風14号の対応や課題を振り返って頂きたい。



延岡河川国道事務所 3階会議室

# 令和4年度の実施取組内容

## 熊本県



②洪水浸水想定区域図委の策定・公表

【水害リスク空白域の解消】

【水位周知河川以外の河川の浸水想定区域図公表・周知】

○水位周知河川以外の河川について、想定し得る最大規模の洪水浸水想定区域図を令和4年3月に公表しました。

○また、作成した洪水浸水想定区域図について、県ホームページ「防災情報くまもと」にて閲覧できるように令和5年1月末に改修作業を実施しました。

対象河川

- 五ヶ瀬川      ○川走川      ○旅草川
- 柳谷川      ○中島川      ○吉尾野川
- 神働川      ○宇谷川      ○湯ノ谷川



【画面イメージ】防災情報くまもと

- トップページ
- ニュース
- 避難情報
- 気象・警戒情報
- 観測情報
- 地震・津波・火山
- 通行規制情報
- ハザードマップ
- 防災リンク

トップページ > ハザードマップ

ハザードマップ

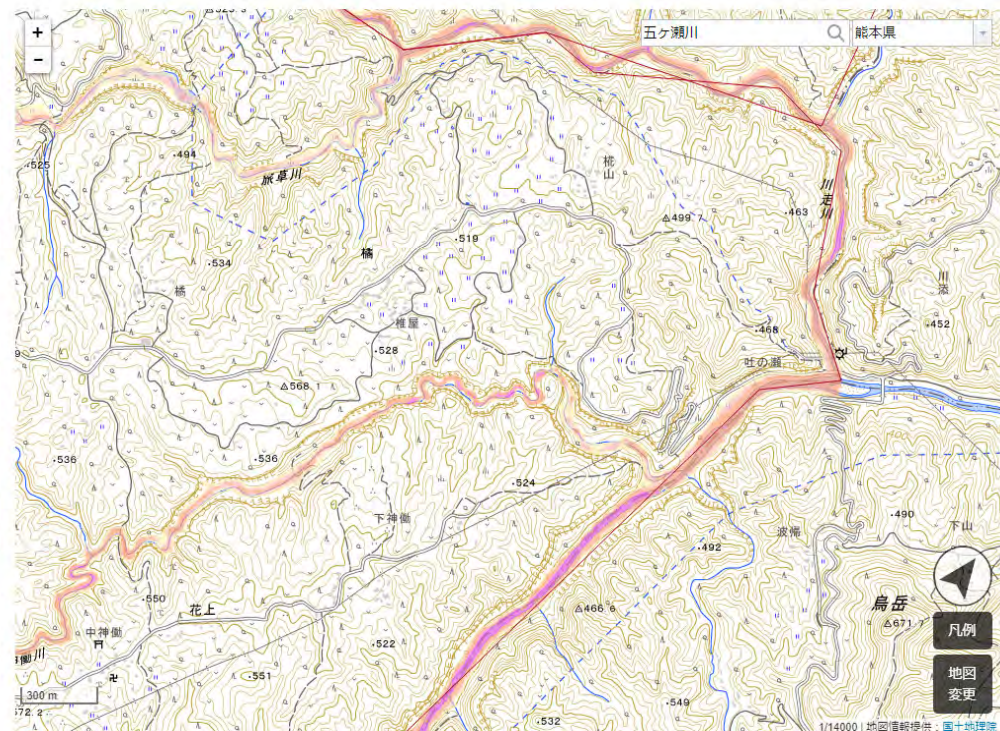
※浸水想定区域の洪水情報表示時、ハザードマップの浸水想定区域をクリックすると、浸水する深さが確認できます。

位置図



浸水想定区域

- 洪水
  - 津波
  - 高潮
- 観測情報
- 河川水位情報
- ため池
- ため池情報
- 土砂災害警戒区域・特別警戒区域 (R2.6月時点)  
・指定済箇所
- 土石流
  - 急傾斜地の崩壊
  - 地すべり(警戒区域のみ)
- ・指定予定箇所
- 土石流
  - 急傾斜地の崩壊
  - 地すべり(該当箇所なし)
- 山地災害危険箇所
- 崩壊土砂流出危険地区
  - 地すべり危険地区
  - 山腹崩壊危険地区



# 令和4年度の実施取組内容

## 大分県



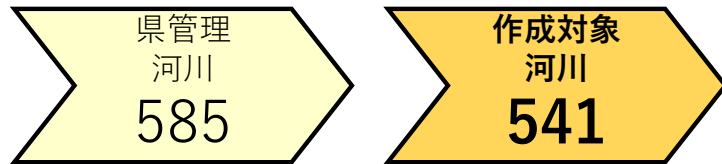
①ハザードマップの作成

【中小河川等における避難行動支援の充実】

○災害の危険性の見える化により、洪水等からの逃げ遅れが無いよう、適切な避難行動を促進

①中小河川等洪水時ハザードマップ作成支援

☑頻発する豪雨災害に対応するため、令和5年度より作成対象を中小河川（県管理河川）の全河川に拡充し令和8年度までに作成



【令和4年度まで】

高優先河川:255河川

- 過去に浸水実績のある河川
- 河川背後地に資産(住居等)が集中(人家50戸以上目安)
- 要配慮者利用施設が河川近傍に存在

【令和5年度より】

対象河川:541河川

- 作成対象河川を全河川に拡充

<効果> 中小河川等での住民の避難体制を構築

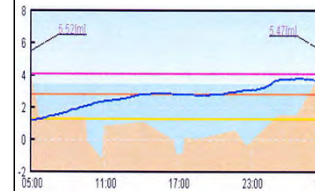
②中小河川等への水位計・河川カメラ増設

☑住民の避難行動を促すための視覚情報を充実するため、従前の大規模河川等に加え、中小河川等へも水位計・カメラを増設

考え方

☑過去に浸水実績のある河川  
⇒浸水実績のある河川については、ハザードマップに加え、視覚情報を用いて、より緊迫感を持って避難行動を促す

◆水位計：既設127基 + 増設24基 = 計各151基設置 (R3済)  
◆カメラ：既設 82基 + 増設69基

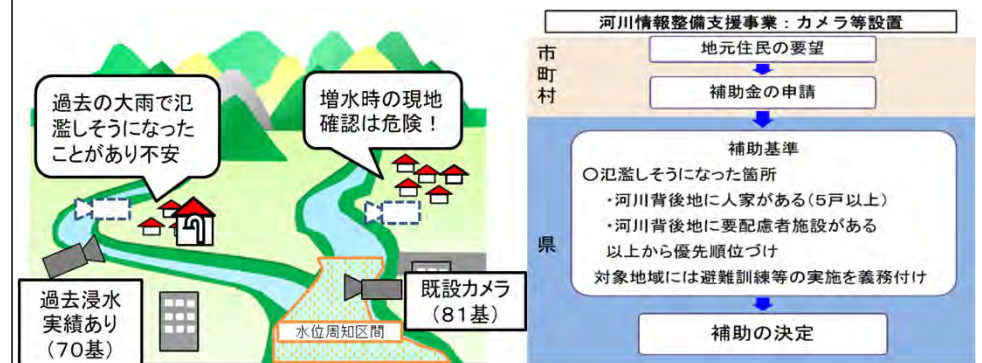


<効果>

視覚情報等の提供により、適切な避難行動を促進

(県HPや防災アプリ等で視覚情報を発信)

○市町村が県管理河川に新規に設置する河川監視カメラ等の設置費用について支援を実施。(R4~R6)



⑦防災意識の醸成

【おおいた防災VRや防災啓発動画による防災意識の醸成】

○おおいた防災VRや防災啓発動画などの活用により住民の防災意識の醸成を図る。

おおいた防災VR

【事業目的】

防災意識の醸成、早期避難の促進

【制作コンテンツ】

地震編、津波編、土砂災害編 (R1)

洪水・浸水害編、台風編 (R2)

【運用方法】

- ・学校や地域の防災訓練等で活用
- ・県振興局等で視聴用ゴーグルを貸出
- ・「YouTube」で全編公開

啓発動画

【事業目的】

コロナ禍における個人や世帯単位の啓発、防災の日常化

【制作コンテンツ】

事前の備え編、災害 風水害編、災害 地震・津波編、県の取組編 (R3)

【運用方法】

- ・「YouTube」で全編公開
- ・県防災対策企画課でDVDを貸出





# 令和4年度の実施取組内容

## 延岡市

② 避難確保計画、個別避難計画、避難訓練

【要配慮者利用施設における避難確保計画の策定促進と避難の実効性確保】

○要配慮者利用施設避難確保計画作成等が義務化されたことを受け、平成31年1月9日に要配慮者利用施設を対象に作成に関する講習会を開催。併せて翌2月6、7日に災害時に安全に避難する方法等をテーマにワークショップを開催した。

○要配慮者利用施設が提出した避難確保計画について、県及び市の各施設を所管する部局と防災部局の双方で点検を行い、必要時には施設に助言等を行っている。

○避難確保計画に係る令和3年5月の水防法及び土砂災害防止法の改正を受け、避難の実効性を確保するための計画作成支援講習会（県主催）を実施し、施設管理者や所有者等、約200名が参加した。

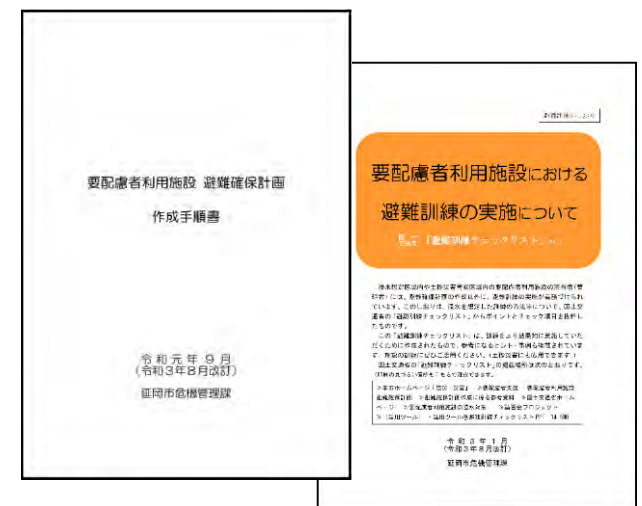
○施設へ「避難確保計画作成手順書」のほか「避難訓練のしおり」を作成、配布し、適切な計画作成と効果的な避難訓練の普及を図るとともに、計画未作成の施設を訪問して計画作成の意義を説明し、全施設の計画作成に向け取り組んでいる。



作成支援ワークショップ（H31.2.6/2.7実施）



計画作成支援講習会（R3.11.15 実施）



避難確保計画作成手順書・避難訓練のしおり

【講習会及びワークショップ参加団体数：241団体】

【参加者数：約200名】

■【延岡市の要配慮者利用施設避難確保計画の作成状況】

- 対象施設(洪水・土砂災害) 506施設
- うち避難確保計画作成済み施設数 498施設（作成率98.4%）※令和5年3月末
- 今後、計画未作成施設に作成を促すとともに、引き続き計画策定に向けた支援を行う。
- 新たに追加する施設については、速やかに避難確保計画が作成できるよう、関係機関と連携し支援を行う。



② 避難確保計画、個別避難計画、避難訓練

【要配慮者利用施設における避難確保計画の策定促進と避難の実効性確保】

○個別避難計画の作成推進のために内閣府のモデル事業を活用し、全国のモデル事業参加自治体とノウハウを共有しながら、個別避難計画の効果的・効率的な作成手法を検討している。

○市役所庁内の危機管理部局と福祉部局が連携し、自主防災組織や民生委員など地域の活動団体、福祉専門職、福祉系大学教授から構成される個別避難計画策定検討委員会を組織した。計画作成に関する課題を整理しながら、行政と地域、福祉専門職が一体となって、高齢者や障がい者などの支援の必要性に応じた体制を構築するための協議を行っている。

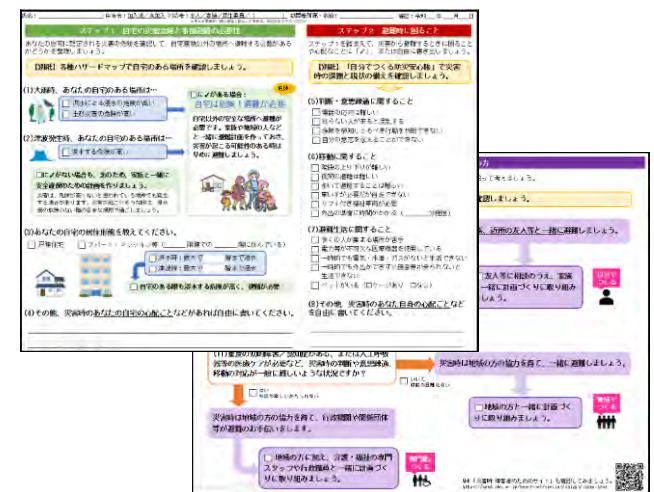
○計画作成に携わる地域や福祉専門職の方々が簡易に、かつ一定の精度をもって計画を作ることができるように「課題分析シート」を作成した。モデルケースの避難における課題分析（アセスメント）を行いながら、「課題分析シート」の実効性を試行している。



個別避難計画作成推進体制イメージ



個別避難計画策定検討委員会  
(R3年9月～R4年2月 計4回開催)



課題分析シート

【今後の取り組み】

○優先度の高い避難行動要支援者について、おおむね5年程度で作成することを目標とし、次年度以降は「課題分析シート」等を活用しながら個別避難計画作成を担う関係者等への研修を実施する。市内全域に展開できる仕組みづくりを行うとともに、各地区で作成する地区防災計画との連携を検討している。

## ②水害リスク・ハザードマップの周知

### 【富美山町北区におけるコミュニティタイムライン作成、避難訓練】

○内閣府の「地区防災計画作成モデル創出事業」において、富美山町北区で兵庫県立大学阪本教授の防災講話聴講、コミュニティタイムライン作成ワークショップ、避難訓練を実施

#### R3.12.5 コミュニティタイムライン作成ワークショップ



参加者：富美山町北区住民（約30名）、延岡市危機管理課、延岡市防災推進員、富美山地区長会（約10名）内閣府（防災担当）、阪本真由美教授（兵庫県立大学大学院）

#### R4.3.13 避難訓練、防災講話



参加者：富美山町北区住民（約25名）、延岡市危機管理課、延岡市防災推進員、阪本真由美教授（兵庫県立大学大学院）

#### ◆成果・今後の取り組み

- 地域の防災意識が向上し、地区防災計画の作成に繋がった。
- 今後は地区防災計画のフォローアップ、積極的な作成支援に取り組んでいく。



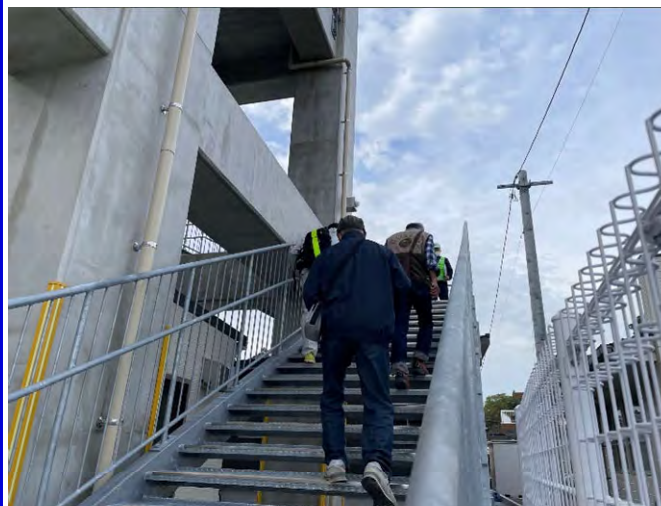
②水害リスク・ハザードマップの周知

【自主防災組織や地域などでの防災講話等及び地区防災計画等の作成支援】

- 自主防災組織や企業、学校などでの防災講話や防災訓練
- 自主防災組織に対して防災資機材等の補助
- 地域に対して、宮崎県の地域防災力向上事業を活用した地区防災計画の作成支援
- 防災士や災害ボランティアリーダーなど防災関係団体との連携促進



学校や地区などでの防災講話・避難訓練  
(R4. 8. 27 大貫上区防災訓練)  
参加者 33名



地域に対する地区防災計画の作成支援  
(R4. 11. 17 土々呂地区複合型津波避難施設  
周辺4地区の避難訓練)  
参加者 区長等15名



災害ボランティアリーダースキルアップ研修  
(R4. 6. 12 主催：延岡市社会福祉協議会)  
参加者 85名

◆成果・今後の取り組み

- R4年度実績 防災講話：98回 3,888人 避難訓練：79回 5,236人 (R5.3末時点)
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、参加者が同一会場に集まる防災講話や訓練が実施しにくい状況があるため、防災講話の動画を作成し、ホームページで公開している。
- 今後さらに、各地区において積極的な地区防災計画の作成支援に取り組んでいく。

⑦防災意識の醸成

【LINE、防災アプリ、防災ラジオの利用登録の促進】

○防災行政無線のほか、災害情報メール、防災ラジオ、防災アプリやライン、フェイスブックによる情報伝達体制の構築を図るとともに利用登録を促進する。

延岡市公式ライン



防災アプリ「防災のべおか」



R3.6月1日 配信開始

防災ラジオ



コミュニティ放送(FMのべおか)を活用した自動起動型防災ラジオ

◆成果・今後の取り組み

延岡市防災ラジオシステムの整備 (令和3年度159台販売、令和4年度200台販売)

延岡市防災アプリの整備 (令和5年2月28日現在 登録者数7,281人)

防災ラジオ活用の周知、災害情報メール・公式ライン・防災アプリ等の利用登録を促進



③避難所及び避難路の整備

【避難所等の確保及び環境改善の推進】

◆指定避難所・指定避難場所の確保と環境改善

- 県立学校や民間施設等と連携し避難所及び避難場所の利用に関する協定を締結
- 災害時の逃げ遅れゼロを目指して多目的トイレの設置や段差解消など避難所等の環境を改善



空調整備後の特別教室（岡富小学校）



多目的トイレ設置後の三川内小中学校体育館

◆成果・今後の計画

【避難所等環境改善事業】

三川内小中学校に多目的トイレ、段差解消のスロープを設置  
上南方小学校体育館のトイレ洋式化、多目的トイレの開閉扉の改修  
板張りの避難場所の寝づらさを解消するための敷マットの購入  
学校の特別教室などの空調設備を実施中、令和5年度完了予定

④多機関連携型タイムラインの運用

【多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号】

○令和4年9月の台風14号における各機関の対応と得られた・感じた課題について情報共有を行った。今回の経験をふまえ、より実効性の高いタイムラインにするために、現行のタイムラインの見直しについて関係機関の意見を今後聴取し、今年の出水期に備えることとした。

◆ 実施状況

○日時：

令和5年2月27日（月）15:00～16:30

○場所：

延岡河川国道事務所 3F 会議室  
WEB会議併用（Teams）

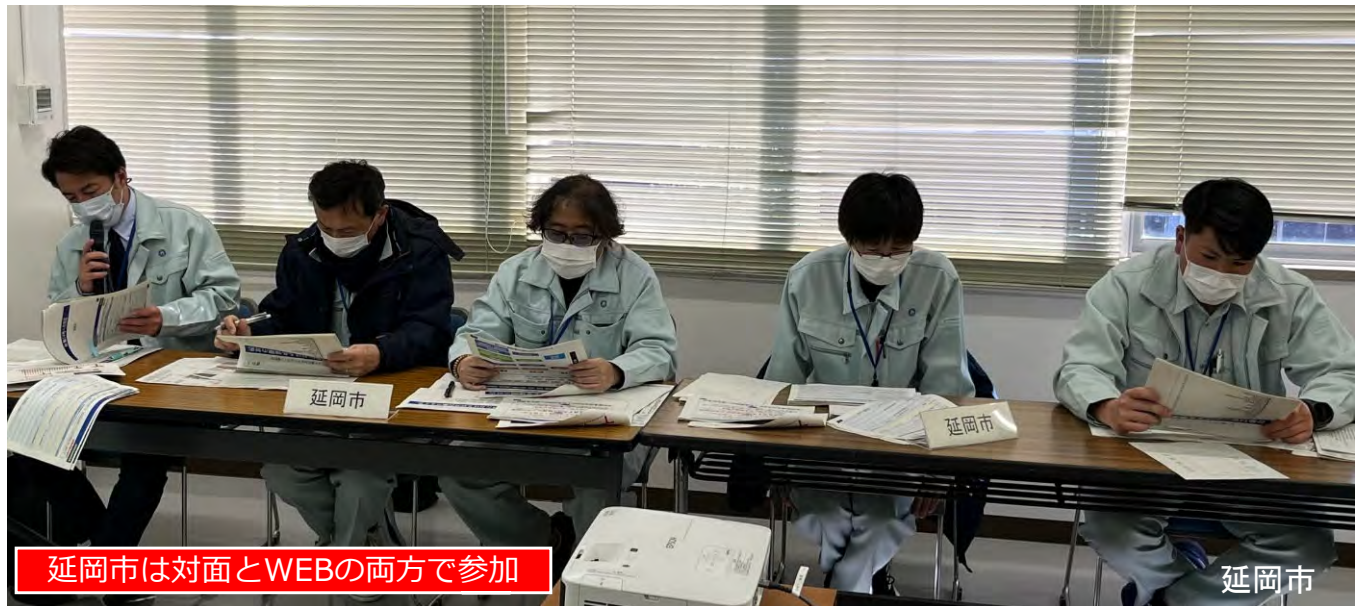
○出席者：

宮崎地方気象台、宮崎県危機管理課、河川課、延岡土木事務所、西臼杵支庁、東臼杵農林振興局、延岡市、五ヶ瀬町、日之影町、高千穂町、延岡市消防本部、消防団、株式会社NTTフィールドテクノ、宮崎ガス株式会社、旭化成株式会社、延岡市区長連絡協議会、延岡市自主防災組織連絡協議会、宮崎県立延岡病院、延岡河川国道事務所

参加人数 約40名

◆ 議事次第

1. 開会／挨拶
2. 議題
  - ・台風14号における各機関の対応と課題
  - ・タイムラインの見直し
3. 質疑応答
4. 総括
5. 閉会



◆ 総括 村上座長（宮崎大学）

- ・今回の対応でうまくいったところ、改善が必要なことについてとりまとめ、今年の台風に備えることが必要。
- ・住民の方に自ら行動するようなマインドをもってもらわなければならない。地道に進めていくしかない。引き続き、がんばっていただきたい。水門操作における対応（流木による閉塞等）は早期解決できる。
- ・実態として車での避難が増えている。避難をどのように行うかなど、今後の課題として考える必要がある。

◆ 杉田副所長（延岡河川国道事務所）

よりよいタイムラインにしていくために、今一度、台風14号の対応や課題を振り返って頂きたい。



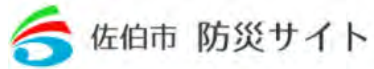
# 令和4年度の実施取組内容

## 佐伯市

②水害リスク・ハザードマップの周知

【佐伯市ハザードマップ・防災マップ】

○佐伯市のハザードマップはホームページにて、水害や土砂災害に関するリスクを確認できるようにしている。



ホーム > 防災サイト > 分類から探す(防災サイト) > 防災マップ > 洪水ハザードマップ > 佐伯地域 > 洪水ハザードマップ(佐伯)

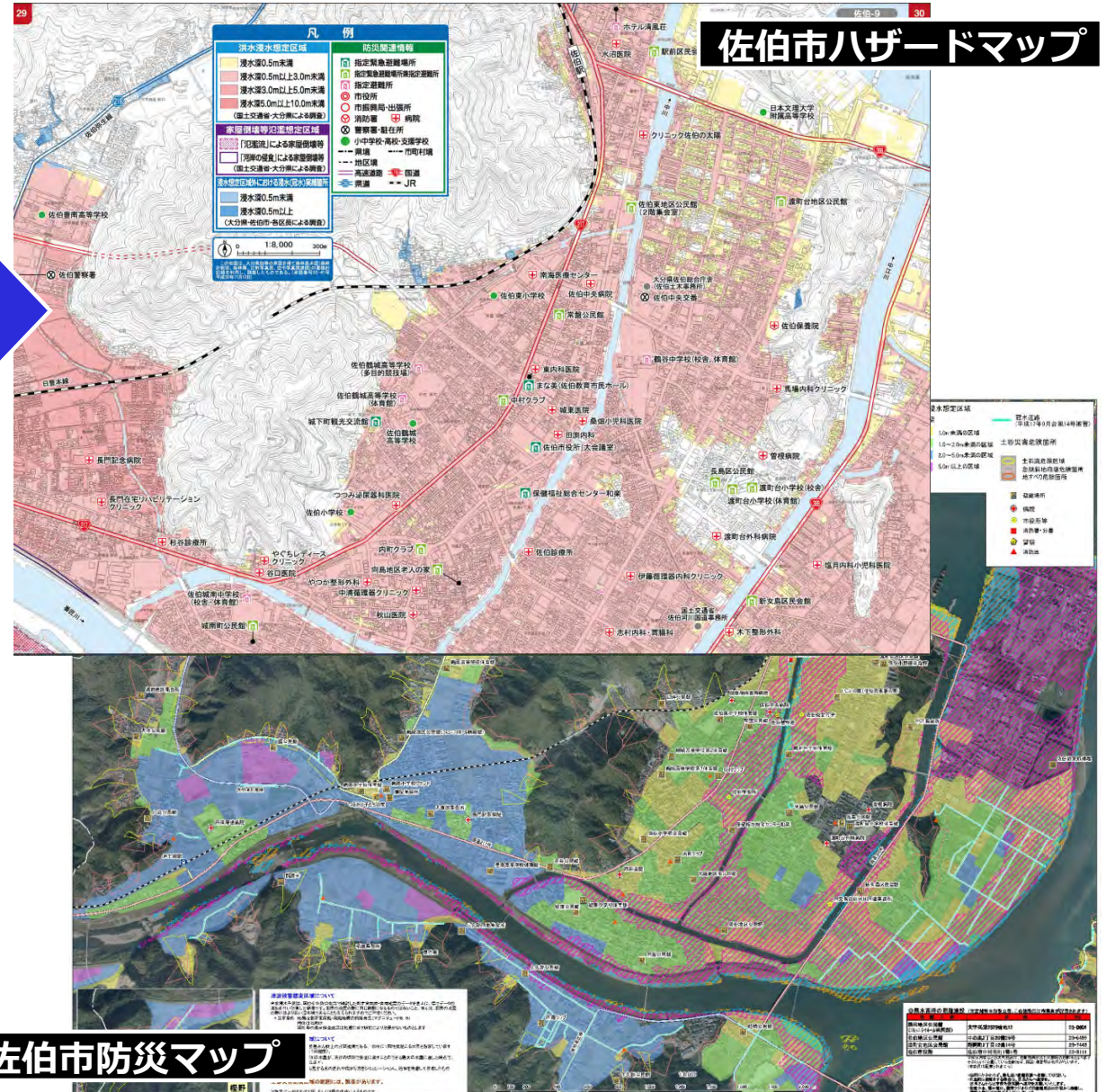
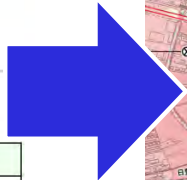
洪水ハザードマップ(佐伯)

最終更新日: 2020年2月14日

洪水ハザードマップ(佐伯地域)

佐伯地域

地域名
<a href="#">佐伯・上浦版 表紙 (PDF: 703.7キロバイト)</a>
<a href="#">佐伯版1 佐伯(1)・深町台(1)・佐伯東(1) (PDF: 1.37メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版2 佐伯(2)・深町台(2) (PDF: 1.14メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版3 佐伯(3)・上堅田(1)・鶴岡(1) (PDF: 1.35メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版4 深町台(3)・佐伯東(1) (PDF: 882.4キロバイト)</a>
<a href="#">佐伯版5 上堅田(2) (PDF: 1.08メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版6 上堅田(3) (PDF: 1.27メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版7 上堅田(4) (PDF: 1.34メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版8 上堅田(5) (PDF: 1.35メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版9 鶴岡(2) (PDF: 1.33メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版10 鶴岡(3) (PDF: 1.35メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版11 大入島(1) (PDF: 659.2キロバイト)</a>
<a href="#">佐伯版12 大入島(2) (PDF: 774.6キロバイト)</a>
<a href="#">佐伯版13 八幡(1)・佐伯東(2) (PDF: 1.07メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版14 西上浦(1)・八幡(2) (PDF: 1.01メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版15 西上浦(2)・八幡(3) (PDF: 1015.5キロバイト)</a>
<a href="#">佐伯版16 下堅田(1) (PDF: 1.26メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版17 下堅田(2)・青山(1) (PDF: 1.3メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版18 青山(2) (PDF: 1.32メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版19 青山(3) (PDF: 1.28メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版20 青山(4) (PDF: 1.28メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版21 青山(5) (PDF: 1.31メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版22 木立(1) (PDF: 1.18メガバイト)</a>
<a href="#">佐伯版23 木立(2) (PDF: 1.26メガバイト)</a>





# 令和4年度の実施取組内容

## 高千穂町

②水害リスク・ハザードマップの周知

【高千穂町防災マップWEB版】

○高千穂町防災マップWEB版によって、水害や土砂災害に関するリスクを確認できるようにしている。

高千穂町防災マップ(Web版)

災害から選ぶ

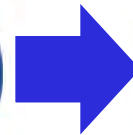
ご確認されたい災害をお選びください



土砂災害に関するマップ



水害に関するマップ



浸水想定区域(想定最大規模)L2マップ



浸水継続時間に関するマップ



家屋倒壊等氾濫想定区域に関するマップ



浸水想定区域(計画規模)L1マップ



浸水実績に関するマップ

高千穂町防災マップ(Web版)

災害から選ぶ

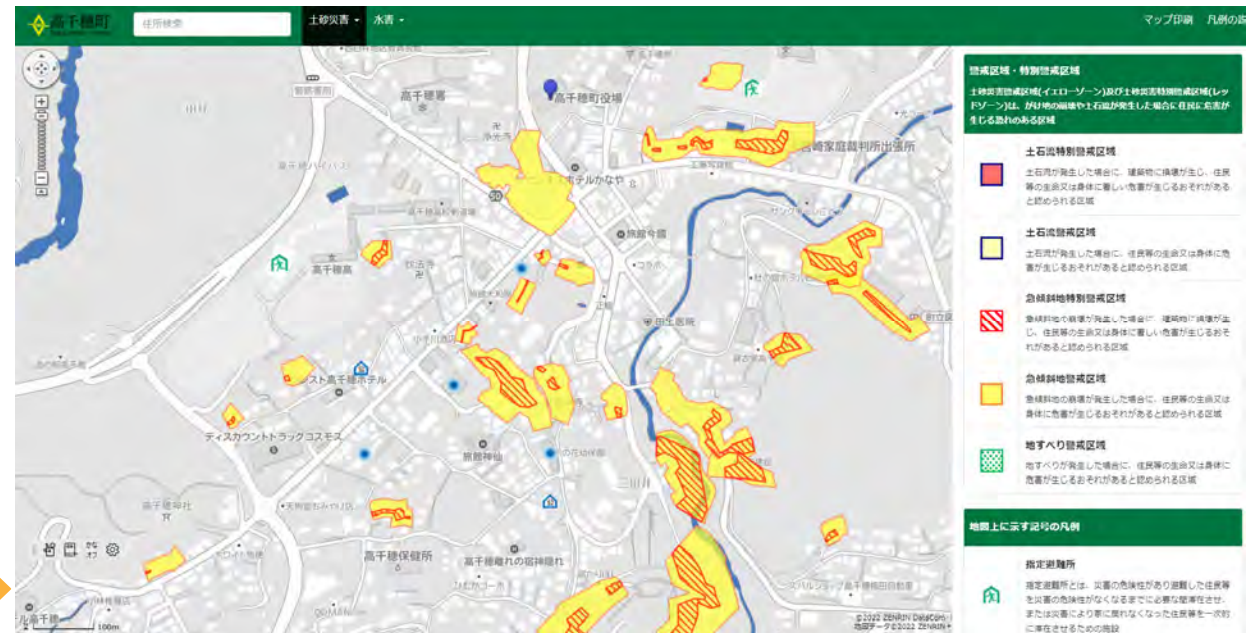
ご確認されたい災害をお選びください



警戒区域(特別警戒区域)に関するマップ



危険箇所に関するマップ





④水害リスク・ハザードマップの周知【ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取り組み】

○近年発生した熊本地震や令和4年台風14号などの大規模災害を踏まえ、住民の迅速かつ安全な避難の実現に向け、高千穂町内各地域でのマイハザードマップ（地域住民が自分たちの手で作成するハザードマップ）の作成支援



砂防課による土砂災害講座



高千穂町による避難所・避難経路説明



地区住民との現地視察



○地域住民14名、宮崎県砂防課・西臼杵支庁・高千穂町、地域住民では中学生から80代と幅広い年齢層での参加。  
○今回のマイハザードマップ作成により避難経路や危険箇所の明確化、地区住民の防災意識の向上を図ることができた。



## ④多機関連携型タイムラインの運用

【多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号】

○令和4年9月の台風14号における各機関の対応と得られた・感じた課題について情報共有を行った。今回の経験をふまえ、より実効性の高いタイムラインにするために、現行のタイムラインの見直しについて関係機関の意見を今後聴取し、今年の出水期に備えることとした。

## ◆ 実施状況

## ○日時：

令和5年2月27日（月）15:00～16:30

## ○場所：

延岡河川国道事務所 3F 会議室  
WEB会議併用（Teams）

## ○出席者：

宮崎地方気象台、宮崎県危機管理課、河川課、延岡土木事務所、西臼杵支庁、東臼杵農林振興局、延岡市、五ヶ瀬町、日之影町、高千穂町、延岡市消防本部、消防団、株式会社NTTフィールドテクノ、宮崎ガス株式会社、旭化成株式会社、延岡市区長連絡協議会、延岡市自主防災組織連絡協議会、宮崎県立延岡病院、延岡河川国道事務所

参加人数 約40名

## ◆ 議事次第

1. 開会／挨拶
2. 議題
  - ・台風14号における各機関の対応と課題
  - ・タイムラインの見直し
3. 質疑応答
4. 総括
5. 閉会

## ◆ 総括 村上座長（宮崎大学）

- ・今回の対応でうまくいったところ、改善が必要なことについてとりまとめ、今年の台風14号に備えることが必要。
- ・住民の方に自ら行動するようなマインドをもってもらわなければならない。地道に進めていくしかない。引き続き、がんばっていただきたい。水門操作における対応（流木による閉塞等）は早期解決できる。
- ・実態として車での避難が増えている。避難をどのように行うかなど、今後の課題として考える必要がある。

## ◆ 杉田副所長

（延岡河川国道事務所）

よりよいタイムラインにしていくために、今一度、台風14号の対応や課題を振り返って頂きたい。



延岡河川国道事務所 3階会議室



# 令和4年度の実施取組内容

## 日之影町

⑩防災拠点・防災ネットワークの検討・整備

【防災拠点の整備】

- 洪水・地震等においても安全な防災拠点施設として機能する役場の建設（庁舎移転）
- 日之影町：日之影町役場新庁舎建設事業 令和3年5月6日新庁舎開庁



平成17年9月洪水による五ヶ瀬川本川沿い日之影地区の被災状況

平成17年9月 台風14号 被災状況

○日之影町役場の旧庁舎本館は昭和31年に建設されて以来60年以上が経過し、施設全体に老朽化が進んでいた。新庁舎建設の建設地選定にあたっては、平成17年9月の台風14号での五ヶ瀬川の氾濫に伴い、庁舎1階が浸水した経緯に加え、国内各地では、想定を超える雨量による水害も頻発しており、本町でも今後起こりうる事が予想され、防災拠点としての安全性が確保が困難である事も一つの要因となり、令和3年5月に現在の高台へ移転した。

○令和4年9月、県北部に甚大な被害をもたらした台風14号の際には、平成17年時と変わらない水位が観測されたが、水害等の被害を受ける事無く、防災拠点施設としての機能を保持する事ができた。



完成



### ④多機関連携型タイムラインの運用

### 【五ヶ瀬川陸閘・樋門の点検及び操作訓練】

- 五ヶ瀬川洪水時の水の流入を防止することを目的に設置されている。（県からの委託により点検・操作訓練を実施）
- 河川の避難判断水位に達したときに門扉を閉じる操作をおこなう。（操作上危険が予想される場合はその限りではない。）
- 令和4年14号台風時には2箇所陸閘を操作し門扉を閉じ、流入を防止した。



● 陸閘 2箇所      ● 樋門 10箇所



## ④多機関連携型タイムラインの運用

【多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号】

○令和4年9月の台風14号における各機関の対応と得られた・感じた課題について情報共有を行った。今回の経験をふまえ、より実効性の高いタイムラインにするために、現行のタイムラインの見直しについて関係機関の意見を今後聴取し、今年の出水期に備えることとした。

## ◆ 実施状況

## ○日時：

令和5年2月27日（月）15:00～16:30

## ○場所：

延岡河川国道事務所 3F 会議室  
WEB会議併用（Teams）

## ○出席者：

宮崎地方気象台、宮崎県危機管理課、河川課、延岡土木事務所、西臼杵支庁、東臼杵農林振興局、延岡市、五ヶ瀬町、日之影町、高千穂町、延岡市消防本部、消防団、株式会社NTTフィールドテクノ、宮崎ガス株式会社、旭化成株式会社、延岡市区長連絡協議会、延岡市自主防災組織連絡協議会、宮崎県立延岡病院、延岡河川国道事務所

参加人数 約40名

## ◆ 議事次第

1. 開会／挨拶
2. 議題
  - ・台風14号における各機関の対応と課題
  - ・タイムラインの見直し
3. 質疑応答
4. 総括
5. 閉会

## ◆ 総括 村上座長（宮崎大学）

- ・今回の対応でうまくいったところ、改善が必要なことについてとりまとめ、今年の台風14号に備えることが必要。
- ・住民の方に自ら行動するようなマインドをもってもらわなければならない。地道に進めていくしかない。引き続き、がんばっていただきたい。水門操作における対応（流木による閉塞等）は早期解決できる。
- ・実態として車での避難が増えている。避難をどのように行うかなど、今後の課題として考える必要がある。

## ◆ 杉田副所長

（延岡河川国道事務所）

よりよいタイムラインにしていくために、今一度、台風14号の対応や課題を振り返って頂きたい。



延岡河川国道事務所 3階会議室



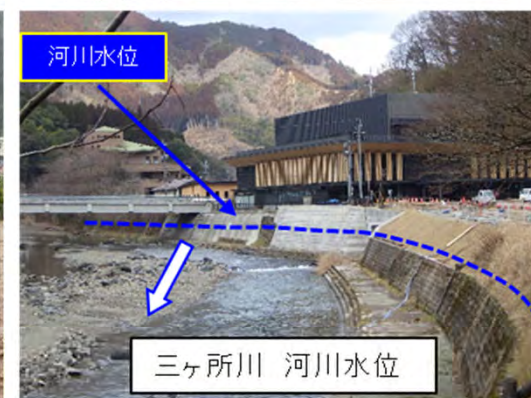
# 令和4年度の実施取組内容

## 五ヶ瀬町

⑩防災拠点・防災ネットワークの検討・整備

【防災拠点の整備】

- 洪水・地震等においても安全な防災拠点施設として機能する役場の建設（庁舎移転）
- 五ヶ瀬町：五ヶ瀬町役場新庁舎建設事業 令和2年1月～令和3年9月完成



○現庁舎は、五ヶ瀬川水系三ヶ所川沿いにあり、これまでの大雨時には1階部分が浸水するなど、災害に脆弱な状況であり、耐震診断結果においても、極めて耐震性が低いと診断された。

新庁舎の執務室は旧庁舎地下より2.8m高くなり、令和4年台風14号の増水による影響は無く、災害対策本部の運営が図られた。また、指定避難所として20世帯36名が避難した。



平成17年台風14号により、旧庁舎地下1階は、河川の増水により公用車駐車場、書類倉庫、ボイラー室が冠水し庁舎の機能に異常をきたした。

令和4年台風14号の増水も氾濫危険水位(3.40m)を越える同等の水位であったが、庁舎移転により防災行政の機能が図れた。



## ④多機関連携型タイムラインの運用

【多機関連携型タイムラインの検証：令和4年9月台風14号】

○令和4年9月の台風14号における各機関の対応と得られた・感じた課題について情報共有を行った。今回の経験をふまえ、より実効性の高いタイムラインにするために、現行のタイムラインの見直しについて関係機関の意見を今後聴取し、今年の出水期に備えることとした。

## ◆ 実施状況

○日時：

令和5年2月27日（月）15:00～16:30

○場所：

延岡河川国道事務所 3F 会議室  
WEB会議併用（Teams）

○出席者：

宮崎地方気象台、宮崎県危機管理課、河川課、延岡土木事務所、西臼杵支庁、東臼杵農林振興局、延岡市、五ヶ瀬町、日之影町、高千穂町、延岡市消防本部、消防団、株式会社NTTフィールドテクノ、宮崎ガス株式会社、旭化成株式会社、延岡市区長連絡協議会、延岡市自主防災組織連絡協議会、宮崎県立延岡病院、延岡河川国道事務所

参加人数 約40名

## ◆ 議事次第

1. 開会／挨拶
2. 議題
  - ・台風14号における各機関の対応と課題
  - ・タイムラインの見直し
3. 質疑応答
4. 総括
5. 閉会

## ◆ 総括 村上座長（宮崎大学）

- ・今回の対応でうまくいったところ、改善が必要なことについてとりまとめ、今年の台風に備えることが必要。
- ・住民の方に自ら行動するようなマインドをもってもらわなければならない。地道に進めていくしかない。引き続き、がんばっていただきたい。水門操作における対応（流木による閉塞等）は早期解決できる。
- ・実態として車での避難が増えている。避難をどのように行うかなど、今後の課題として考える必要がある。

## ◆ 杉田副所長

（延岡河川国道事務所）

よりよいタイムラインにしていくために、今一度、台風14号の対応や課題を振り返って頂きたい。



延岡河川国道事務所 3階会議室

# 令和4年度の実施取組内容

## 高森町



## ①ハザードマップの作成

【地域防災マップの作成】

○水害・土砂災害等に関する危険区域の周知や避難に関する知識の習得、地域コミュニティの強化を図るため、地域防災マップ作成支援を実施。

### 作成支援の流れ

1. 事前準備  
地区の選定、資料準備、事前打合せを行う
2. マップ作成  
地区住民へ地域防災マップについて説明し、話し合いながらマップを作成する

### 高森町の場合

開催地：津留地区  
野尻地区  
参加人数：14人

#### 住民感想

- ・自主防災会ができ安心
- ・高齢者が多い地区のため組織でこれからについて十分協議ができる。



# 令和4年度の実施取組内容

## 山都町



②水害リスク・ハザードマップの周知

【山都町 防災サイト】

○水害・土砂災害等に関する危険区域の周知や、災害発生時に的確な行動をとるための情報提供を目的とした総合防災マップを町内全戸に配布。  
○スマートフォンを活用することで、迅速な防災情報の提供及び災害等に関する情報の収集を目的とした防災アプリの導入。

土砂災害警戒区域のほか浸水想定区域や避難所情報等を掲載した総合防災マップを作成し、町内の全世帯へ配布。地震や火災発生時の行動マニュアル等も掲載し、自主防災組織との連携により活用促進を図っている。

消防・警察・自衛隊と連携した町の総合防災訓練を実施。消防団は防災アプリの写真投稿機能等を活用し、災害発生現場の詳細な情報をいち早く災害対策本部へ伝達した。



【総合防災マップ】



【防災訓練の状況】



【防災アプリの画面】